

2019年度（2020年3月期） 第2四半期連結決算状況

2019.10.31 大阪製鐵株式会社  
(億円)

I. 損益状況(連結)

(金額:単位 億円)

	2018年度実績		2019年度見通し		上期差異	年度差異
	上期実績	年度実績	上期実績	年度見通し		
売上高	441	966	464	940	+23	-26
営業利益	34	74	41	70	+6	-4
経常利益	33	69	39	65	+6	-4
特別損益	-5	※1 -4	-	-	+5	+4
親会社株主に帰属する当期純利益	18	41	26	42	+8	+1

※1 西日本熊本工場電炉ガスト再資源化処理設備に対する事業構造改善引当金の戻入益2、台風による災害損失-6

<1Q決算時公表値>

2019年度見通し	
上期見通し	年度見通し
460	980
33	70
30	65
-	-
19	42

当期の概況

当社グループの属する普通鋼電炉業界では、主原料である鉄スクラップ市況が4月以降軟化したものの、主要需要先である建築・土木向け鋼材需要は低迷し、副原料や主要資材価格等が高止まりしたことにより、引き続き厳しい経営環境となった。このような経営環境において、当社グループはコンプライアンスの強化・充実を図りつつ、安全衛生・環境・防災のリスク管理強化を進めるとともに、品質向上および商品力強化を一段と推進してきた。また、更なる省エネルギー・省資源化操業の追求や現場・現実に根差した操業努力による徹底したコスト削減にも取り組んできた。

加えて、当社グループは、成長戦略の中心であるPT.KRAKATAU OSAKA STEEL（以下、KOS社）の収益基盤強化に努め、大阪事業所における圧延ラインの強化対策についても2021年度の稼働に向け、着実に実行している。

経常損益の対前期差異の内訳は以下の通り。

(1) 生産出荷量の減少	(-5億円)
(2) スクラップ価格等の下落	(+32億円)
(3) エネルギー・資材価格等の上昇	(-4億円)
(4) 販売価格の上昇	(+5億円)
(5) コスト関係	(-2億円)
(6) 棚卸資産評価差等	(-20億円)
計	(+6億円)

配当については、業績に応じて行なうべきものと考えており、第2四半期末の1株当たりの配当は12.5円とする。

次期の見通し

当社グループを取り巻く経営環境については、国内鋼材需要低迷の継続や主要資材の高止まりが懸念され、今後も厳しい環境が続くものと想定される。

こうした環境の下においても、当社グループは、『2020年度連結中期計画～新たな飛躍～』に掲げた経営目標の達成を目指すとともに、KOS社の収益基盤の強化、大阪事業所における圧延ラインの強化対策についても、引き続き強力に推進していく。

なお、当社グループの次期連結業績見通しについては、連結売上高940億円、連結経常利益65億円を見込んでいる。

II. 貸借対照表(連結)

	'19.3E		増減	'19.9E		増減	
	'19.3E	'19.9E		'19.3E	'19.9E		
流動資産	1,313	1,296	-16	393	378	-15	
現金同等物 (内 預け金)	626 (584)	690 (658)	+63 (+74)	178	97	-82	
受手・売掛・未収 棚卸資産	347 232	276 223	-71 -9	127	193	+66	
関係会社短期貸付金 その他	100 7	100 7	- +0	50	53	+3	
固定資産	708	705	-2	15	16	+1	
有形固定資産	681	680	-1	23	20	-3	
無形固定資産	2	1	-0	167	148	-19	
投資その他の資産	26	24	-1	128	109	-19	
投資有価証券 その他	12 13	11 13	-1 -0	19	20	+1	
負債				14	13	-1	
支払手形・買掛金				6	6	-1	
短期借入金等				560	525	-34	
未払金				株主資本	1,433	1,452	+19
未払法人税等				資本金	88	88	-
その他				資本剰余金	109	109	-
固定負債				利益剰余金	1,281	1,301	+19
長期借入金				自己株式	-45	-45	-0
退職給付に係る負債				その他の包括利益	4	2	-2
繰延税金負債				非支配株主持分	24	22	-2
その他				純資産合計	1,461	1,476	+15
負債合計				負債及び純資産合計	2,020	2,001	-19
資産合計	2,020	2,001	-19				

III. キャッシュ・フロー(連結)

(億円)

財政状態	
(1) 総資産は2,001億円と対前期末19億円減少。	税金等調整前当期純利益 39
(2) 現金同等物(690億)と関係会社短期貸付金(100億)を加えた実質預現金は790億円。KOS社等の有利子負債等(301億)を控除した実質ネットキャッシュは488億円。	減価償却費 20
(3) 純資産は、当期純利益確保等により1,476億円と15億円の増加。(1株当たり純資産 3,736円)	売上債権、仕入債務、未収入金の増減 -11
(4) 自己資本比率は、支払手形・買掛金の減少等により72.7%と1.6%上昇。	棚卸資産の増減 7
	法人税等の支払い -14
	その他 -2
	<b>営業活動によるキャッシュ・フロー 39</b>
	固定資産の取得による支出 -23
	その他 1
	<b>投資活動によるキャッシュ・フロー -22</b>
	借入金の増減 54
	配当金の支払 -7
	その他 -0
	<b>財務活動によるキャッシュ・フロー 48</b>
	<b>現金同等物に係る換算差額 -1</b>
	現金同等物の増加 (626→690) 63
	< 現預金+預け金 >

<参考情報>

(億円)

	'17FY	'18FY	'19上
設備投資額(工事)	81.9	36.8	24.6
減価償却費	39.2	40.3	19.7

	'18.3E	'19.3E	'19.9E
在籍人員	927名	975名	1,006名